

ものづくりを支えて

県立工業技術センター

＝上＝

かれた93年には天皇陛下にもお越しいただいた」と思い出を語る。

上田氏は県立徳島工業

高校(現徳島科学技術高

校)を卒業後、立命館大

学理工学部で機械工学を

学んだ。県工業試験場で

は製造の研究に従事。セ

ンターの所長を8年間務

めた後は科学技術庁(現

文部科学省)の地域研究

開発促進拠点支援事業に

携わり、現在も四国産業

・技術振興センター(高

田氏。企業との信頼関係

松市)のコーディネータ



約3万1600平方メートルの広大な敷地面積を誇る徳島市雑賀町の県立工業技術センター(2011年5月撮影、同センター提供)

月。県立工業技術センターは県計量検定所とともに、本庁組織の「県工業技術支援本部」として新たなスタートを切った。各課を廃止して、担当制を導入。異なる専門分野の研究者らが案件ごとにチームを組んで、部課の垣根を越えたワンストップサービスの提供を目指す。

長引く景気低迷と価格競争の激化、円高、欧州危機。県内ものづくり企業を取り巻く環境は一段と厳しさを増している。上田氏は「県民や地場産業の役に立ち続けてこそセンターの存在意義がある」と後輩研究者たちにエールを送った。

歩み

試験・研究 企業とともに

業務開始は1991年8月。高度化、多様化する企業の研究課題にこたえるため、徳島市中前川町にあった県工業試験場と同市鮎喰町の県食品加工試験場を統合し、材料技術、生活科学など七つの課を備えた総合的な試験研究機関

だ。業務開始は1991年8月。高度化、多様化する企業の研究課題にこたえるため、徳島市中前川町にあった県工業試験場と同市鮎喰町の県食品加工試験場を統合し、材料技術、生活科学など七つの課を備えた総合的な試験研究機関

だ。業務開始は1991年8月。高度化、多様化する企業の研究課題にこたえるため、徳島市中前川町にあった県工業試験場と同市鮎喰町の県食品加工試験場を統合し、材料技術、生活科学など七つの課を備えた総合的な試験研究機関

だ。業務開始は1991年8月。高度化、多様化する企業の研究課題にこたえるため、徳島市中前川町にあった県工業試験場と同市鮎喰町の県食品加工試験場を統合し、材料技術、生活科学など七つの課を備えた総合的な試験研究機関

だ。業務開始は1991年8月。高度化、多様化する企業の研究課題にこたえるため、徳島市中前川町にあった県工業試験場と同市鮎喰町の県食品加工試験場を統合し、材料技術、生活科学など七つの課を備えた総合的な試験研究機関

総事業費75億円のセンターとして活動する。ター開業は、全国から注目を集めた。初代所長の「ものづくりの現場が心底好き」という上田氏が所長時代、試験・研究が三本柱とするセンター運営の中で最も力

業に足を運べ」と研究員なり始めた98年オープン

の「明日葉工場」は、製

どがここから果立った。

その後、起業支援や産学官連携の推進において

5年未満の若い経営者の

拠点として共同研究室な

立工業技術センターは、

県内企業の支援でさまざま

な役割を担ってきた。

その歩みや現状を紹介す

る。(湯浅翔子)

その後の、起業支援や産学官連携の推進において

5年未満の若い経営者の

拠点として共同研究室な

立工業技術センターは、

県内企業の支援でさまざま

な役割を担ってきた。

その歩みや現状を紹介す

る。(湯浅翔子)

その歩みや現状を紹介す

る。(湯浅翔子)

る。(湯浅翔子)

る。(湯浅翔子)